

ベトナム国被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策 (Anti-TIP) ホットライン運営強化プロジェクト ニュースレター

ベースライン調査を行いました。概要をご報告します。

なぜベースライン調査を実施したのか？(目的)

2019年4月18日～5月10日にかけて、本プロジェクトでは、ベースライン調査を行いました。ベースライン調査の主な質問項目は以下のとおりです。

- ① 現状、どれくらい的一般市民が人身取引の事を知っているのか？
- ② 被害者救済及び予防のために設置されているホットライン(電話番号:111)の事はどれくらい的一般市民が知っているのか？
- ③ コールセンター(ホットラインの管理を行っている各地域の機関)と人身取引対策に関わる関連機関(公安省・国境警備隊・女性連合)との関係を、関連機関の人身取引対策担当者はどう認識しているか？(ホットラインに被害者からコンタクトがあった場合、これら関係機関と連携し、被害者救済を行います。そのため、各機関との関係を把握する必要があります。)
- ④ 通常、人々はあるどのような手段で情報を入手しているのか？

①～③の調査を通じて現状を把握することによりプロジェクト開始時の状況を把握し、プロジェクトとして目指す目標値を設定すること、そして④により、どのような手段を使えば、より効果的なホットラインの広報活動ができるかを知ることを目的に以下の要領で実施しました。

どのように調査を実施したのか？(調査概要)

調査対象地:

北部:	ハノイ市及びカオバン省
中部:	ダナン市及びハーティン省
南部:	アンザン省及びタイニン省

調査対象者:

- 一般市民(北部・中部・南部それぞれから有為抽出した各省100人、合計300人)
- 各地域コールセンター(ハノイ市、アンザン省、ダナン市)の電話相談員
- 各地域の関係機関(ハノイ市、アンザン省、ダナン市それぞれの公安省、国境警備隊、女性連合)

調査方法:

質問票に基づいたインタビュー調査

調査実施者:

労働科学社会研究所の女性労働ジェンダー研究センター(Institute of Labour Science and Social Affairs, Research Centre for Female Labour and Gender)

本調査は上記センターに委託契約により実施しましたが、本プロジェクトメンバーも調査に参加しました。

次ページで詳しく調査結果を受け、右のプロジェクト指標の目標値を決定いたしました。



調査対象地

今後(7～8月)の主な活動予定

- ・E-ディレクトリの拡充
- ・電話相談員のオペレーショナル・ガイドラインの改訂
- ・ホットライン機材の調達手続き、発注
- ・電話研修員向けトレーニングの実施
- ・7月30日の国際・全国反人身取引デーに合わせた広報活動

今回の内容

- ・ベースライン調査を行いました。概要をご報告します。
- ・南部アンザン省でDOLISAフォーカルポイントセミナーを開催しました。

プロジェクトの概要

上位目標

人身取引被害者及び潜在的被害者に対する適切なレファラルが地域レベルにおいて実施される。

指標① 2024年のレファラル数が100件に達する。

指標② 地域コールセンターからレファラルを受け入れた関連機関の満足度が80%に達する。

プロジェクト目標

人身取引対策ホットラインの運営が地域レベルにおいて強化される。

指標① 各地域コールセンターの人身取引にかかる電話の件数が2021年に下記の件数に達する(ハノイ市2,475、ダナン市900、アンザン省1,125件)。

指標② 各地域コールセンターからの関係機関へのレファラル件数が2021年に下記の件数に達する(ハノイ市51、ダナン市18、アンザン省23件)

成果

1. 関係機関との連携により、中央及び省・市レベルでレファラル及び情報共有体制が強化される

指標 全国63省すべての関係機関がE-ディレクトリのレファラル先として登録される。など。

2. ハノイ(北部地域)、アンザン省(南部地域)、ダナン市(中部地域)において人身取引対策地域コールセンターが整備される

指標 カウンセリングとレファラルにかかる電話相談件数の99%及びレファラルの件数の65%が解決する。など。

3. 全国において人身取引対策ホットラインにかかる人々の認識が向上する

指標 人身取引対策ホットラインを知っている人が調査地内で50%に達する。など。

そして、調査の結果は？

- 人身取引について聞いたことがあるか？
⇒回答者の 68.7%の人が「知っている」
- ホットラインを知っているか？
⇒回答者の 12.3%が「知っている」

人身取引に関しては、社会的に認知されてきているものの、ホットラインに関してはまだまだ知名度が低い、という結果でした。

- コールセンターと人身取引対策関連機関との関係は？ ⇒40%の人が「関係は良い」と回答しています。なお、残り 60%は「今までそれ程やり取りをしていない」と回答しており、各関連機関との関係構築にもう少し取り組む必要がある、と感じさせる回答でした。



調査地の風景（カオバン省）

- ホットラインを知っている人たちは、どのような手段で知ったのか。⇒86.5%の回答者が「テレビなどのマスメディア」、46.0%の人が「SNS」と回答。その他は「村の集會」、「友人」などでした。

調査地はのどかな農村地帯でしたが、やはりテレビ、そして特に若い世代はインターネットの影響力の大きさを再認識する結果となり、ホットラインの広報活動はこれらの手段を使っていくことが有効のようです。

まだまだ認知度が低い人身取引対策ホットライン。厳しい結果を突きつけられながらも、広報活動のやりがいを感じています。

この調査結果を受けて、7月4日の合同調整会議を経て、前ページのプロジェクト目標値を決定いたしました。



インタビュー調査の様子（カオバン省）

南部アンザン省で DOLISA フォーカルポイントセミナーを開催しました。

本プロジェクトでは、6月27～28日南部アンザン省で DOLISA (Department of Labour, Invalids and Social Affairs) フォーカルポイントセミナーを開催しました。このセミナーでは、人身取引対策に取り組む、各地域の関係機関、計 65 名が一同に介し、新しく設置された「DOLISA フォーカルポイント」としての役割を伝え、現状の人身取引対策の取り組み及び課題、そして今後の活動計画を話し合いました。

会議で話し合われた主なトピックを以下のとおりご紹介します。

- 中国人と強制結婚させられる女性被害者のケースが近年目立つ。ただ、このような



講演を行う DCA・Nam 局長

ケースは立証が難しい。また中国など国外で出産した子どもを連れて帰還するケースは、その子どもはベトナムの出生証明を持たず、支援が困難になるケースもある。

- 被害者に関するニュースで被害者の個人情報や報道される場合もあり、そのために被害者が帰還しても、社会的に再び傷つけられるケースもあり、対策が必要。
- 被害者のサポートをしっかりと行うため、各関係機関の関係強化とともにソーシャルワークセンター職員の能力向上が不可欠であり、もっとトレーニングを行って欲しいが、予算・人材不足も課題である。

なお、会議の様子は地元のアンザンテレビでも放送され、非常に盛会のうちに終わりました。



会場の模様

調査こぼれ話

その① こんなにきつい仕事とは。。。私は、北部のカオバン省の調査に同行しました。「こんにちは。ちょっとお話し聞かせて貰えますか？」と集落の家を訪問すると、「では、まず一杯」と地元のトウモロコシ酒を振る舞われます。各家庭で大体三杯程度、一杯、二杯ならまだしも 10 軒近く訪問するともうペロペロです。「北部の人はお酒が好き」と聞いていたのですが、まさか、こんなに飲まされるとは。。。下戸の私には命を張ったお仕事になりました。

その② こんな人たちも協力してくれている

調査の途中、町で観光客向けビジネスをしている人と出会いました。その方に「人身取引について何か知っていますか？」と聞いたところ「何人か被害者を救済しているよ」とのこと。この町は川を挟んで中国と国境を接しています。その河原で心身共に傷ついた被害者とよく「遭遇」するとのこと。その方は被害者を発見すると、当面の生活費・生活物資などを渡して家に帰らせるとお話をされていました。こんな善意に満ちた方もいるのか、と非常に感動する思いでした。

本ニュースレターは、プロジェクトの進捗状況や周辺情報をお知らせするため JICA 専門家の見聞をお送りしています。JICA 及びカウンターパートの公式見解ではありません。なお、無断での転載はお断りしています。

プロジェクトメンバー

- 岩品 雅子 (総括／省庁間連携／研修管理①／人身取引対策②／ジェンダー②)
- 栗田 貴之 (IT、機材調達／啓発活動①)
- 岡野 鉄平 (業務調整／研修管理②／啓発活動②)



ホットラインの Facebook もあります。是非一度ご覧頂き、よろしければ「いいね！」をお願いします！

皆さんにご頂くことで、人身取引被害のため、困難を抱えていらっしゃる被害者の皆様が、より一層このページにアクセスできる可能性が広がります。

「Tổng đài Quốc gia Bảo vệ Trẻ Em」

(全国児童保護コールセンター)と検索頂くか、以下の URL にアクセスをお願いします。

<https://www.facebook.com/tongdaiquocgiabvte/>